

苫小牧市立中央図書館の自己評価並びに自己評価説明及び点検を踏まえ実施した図書館協議会委員による評価は以下のとおりです。

令和5年12月26日

苫小牧市図書館協議会 会長 松井 操人

#### <総評>

令和4年度の苫小牧市立中央図書館の運営については、臨時休館等はなく、イベントや講演会などもほぼ実施できていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響は色濃く、図書館運営には苦労されながらもサービス向上のために取り組まれていました。

資料・情報の収集や保存等の基礎的な図書館サービスを適切に行いながら、郷土資料のデジタル化を含めた電子図書館の充実が図られており、時代に即した対応であると考えます。また、乳幼児・保護者、障がい者、高齢者のための環境整備など、多様化するニーズにも配慮して対応している点は評価できます。デジタル化された資料をどのように活用していくかが課題であるとともに、新たなサービスの提供を積極的にPRしていただきたいと考えます。

課題解決の支援については、世代やニーズに合わせて取り組んでいる点は評価できます。地域社会に求められる図書館としての役割を果たしていますが、課題解決支援は程度の問題があり、どこまで何ができるのかという基準等が必要ではないかと考えます。また、課題解決に向け、新たなボランティア活動の創生なども視野に、図書館機能の強化を望みます。

子どもの読書活動の推進については、各年代に合わせた取り組みが充実していると考えます。課題であるYA世代への取り組みは、POP制作などの参加型事業を行ったことは評価できます。YA世代のアイデアを活用するなど、引き続き交流を重ねるとともに、参加型事業の継続も望みます。

情報発信については、紙の館報やSNSなど、各年齢層それぞれが使いやすい媒体を使用する等の工夫がされており、それが実績に反映されていると考えます。利用者満足度も非常に高く、目標値を達成していることは評価できます。

しかし、コロナ禍であるとはいえ、単年度目標が達成されていません。「利用者の読書意欲の復活を待つだけでなく」、アウトリーチにも取り組んでいただき、もっと職員が外へ出てPRに努めていただくことを望みます。

総評並びに以下に記載する各委員の意見のまとめのほか、アンケート記載の利用者意見等を参考に、さらなる図書館運営の充実に努めてください。

## 「運営計画 1 基礎的な図書館サービスの充実」について

### 【評価する点】

- ・「こそだて time」「ボードゲーム」等の導入は、来館の動機につながり良い取組である。
- ・館内の各所で工夫して本が置かれているので感心している。
- ・図書館運営の多様化への対応が見受けられる。
- ・「乳幼児・保護者のための環境整備」、「障がい者のための環境整備」、「高齢者のための環境整備」などが評価できる。
- ・ログインせずに電子図書館コンテンツを閲覧できるのは、気軽に操作ができて良い。
- ・「古くてほこりっぽいイメージ」だった郷土資料がデジタル化されていることは、若年層の市民はもとより、市外へ郷土を PR する新たな魅力的ツールとして活用されていくと期待する。
- ・資料のデジタル化は、今の時代に合っていて良い取組である。学生たちがたくさん利用することを期待する。
- ・デジタル化でますます多忙になり専門的になっているなか、資料を充実させている。
- ・資料・情報の収集、保存が随時適切に行われていることがわかる。電子図書館の資料数、利用者も年々増えているので、今後もさらなる充実を図っていただきたい。

### 【改善を要する点】

- ・デジタル化された資料をどのように活用していくかなど、今後注目している。また、切り口を変えた新たなサービスの提供をもっと積極的に PR し、利用の促進につなげていただきたい。
- ・対面朗読室の利用について、障がいのある方への PR を求める。

## 「運営計画2 家庭生活及び職業上の課題や地域課題解決のための支援機能の強化」について

### 【評価する点】

- ・心をつかむ講座の開催。
- ・時節に合わせたテーマ展示は良い取組である。
- ・レファレンスサービスに関しては、「こんなことを質問してよいのか」と躊躇してしまい、別の方法で解決することがよくある。レファレンス専用の受付フォームがあることは、利用者にとって大変便利である。
- ・新規事業も含め、いろいろな講座、展示、セミナーを実施しており、世代やニーズに合わせた支援がされている。地域社会に求められる図書館としての役割を果たしている。
- ・図書館には個人ボランティアというすばらしい資源がある。この人たちを大事にし、つながりを深めている職員の姿をととても嬉しく思う。
- ・レッドイーグルス北海道によるイクメン講座は、普段図書館に足を運ばない方たちに来館してもらう良いアイデアである。パパたちも参加しやすいと思う。
- ・青空こども図書館やおはなし玉手箱は、子どもたちが喜ぶイベントであるので良い。

### 【改善を要する点】

- ・加齢や様々な障がい等により、図書館に足を運べていない方、本を自分で読むことが難しい方へのサービスなど、課題解決に向けた「新たなボランティア活動の創生」も視野に、今後も市民の皆さんと共に図書館の機能強化を望む。
- ・「家庭生活及び職業上の課題」というところの程度問題は微妙である。今後、介護などどこまで何ができるかという基準や目安の必要性を感じる。

### 「運営計画3 教育的役割を重視した取組の推進」について

#### 【評価する点】

- ・小さい子どもと保護者が楽しめる企画は気兼ねなく利用できてとても良い。
- ・子育て世代に優しい図書館であるための工夫がされており、大変良い。
- ・乳幼児からお年寄りまで幅広い対象に対し、多方面からのアプローチが見受けられる。
- ・各年齢に合わせた取組が充実している。
- ・「YA 世代に向け情報交流コーナーの設置」で生徒たちと POP 制作をすることは良い。YA 世代との交流のため、このような参加型事業をこれからも増やしていただきたい。
- ・幅広い世代への教育的活動の支援がなされており、YA 向けの情報・交流コーナーは良い取組である。YA 世代のアイデアを活用できると今後面白いイベントなどができるかもしれない。
- ・子どもたちがたくさんの本を見ることができると、保育園への貸出や児童センターへの貸出は良い取組である。

#### 【改善を要する点】

- ・保育園等の団体でも利用できる企画を増やしていただきたい。
- ・それぞれの世代がいずれも居心地が良い状態を保つためには「マナー」を意識していただく必要がある。さりげなく、しかし毅然とした職員の対応が求められると思う。明文化しておき、最初の利用登録の時などにその方の年代に合った注意事項などを伝える方法があると良いのではないかと。ご検討いただきたい。
- ・10代20代に対する取組が課題ではあるが、逆に10代だけではなく、シニアと幼児をターゲットとする取り組みに集中するのも特色の1つとしては有り得るのかも知れません。
- ・子どもたちが本を借りた時、その記録が残るようなものはあるだろうか。他の町の話だが、貯金通帳のような「読書通帳」があり、借りた冊数が増えていくというもので、子どもの読書意欲が出てくるのではと思った。
- ・子どもたちの読書習慣形成の基礎は、親による毎日の読み聞かせである。保育園等に通う前から家庭で始められるよう、読み聞かせの大切さをPRするとともに、取り組みの方法、どんな絵本を読むか、先輩の体験談などの研修会を行う必要がある。

#### 「運営計画 4 魅力的かつ効果的・効率的な運営体制の構築」について

##### 【評価する点】

- ・各年齢層に対する利用しやすい媒体の工夫がされており、それが実績に反映されてきていると思う。
- ・アンケートを拝読するたび、職員の皆さんの日々の努力が伝わる。
- ・今の時代に本という媒体が基準の中で、大変良く努力していると思う。
- ・デジタルに馴染めない方々も多くいると思う。「取りこぼしなく情報を提供」ということは、とても大切なことだと思う。
- ・職員の研修、図書館の広報など、運営体制の向上が図られている。利用者満足度も非常に高く、目標値を達成していることは素晴らしい。設備、資料の充実やスタッフの方々の努力の結果である。
- ・町内会だより等へのサービス、障がい者のサービス周知は大変良いと思う。

##### 【改善を要する点】

- ・町内会だよりを使った図書館 PR は大変良いと思うが、もっと職員が外へ出て PR に努めて欲しい。文面で伝えることも大事だが、広い世代の市民と会い、人と人として伝えあうことで、図書館の PR と市民のニーズを知る機会が生まれると考えている。コロナ5類移行に伴い、市内では様々なサロンやイベントが再開されているので、是非ご検討いただきたい。
- ・「生活者としての外国人」「外国人と日本人の多文化共生の場」作りとしての図書館の一方方向性も今後有りうるのかも…。
- ・全てに言えるのだが、H29 年度の基準の見直しの必要性はないのか？特に貸出数は基準として時代にマッチしているのだろうか？など。
- ・資料や日常生活等において横文字の言葉がだんだん増えてきており、よくわからないままそのままにしてしまうことが増えた。図書館でもわかりやすい表現を心がけていただきたい。
- ・町内会だよりに掲載された物を見たい。どのような形で載っているか知りたい。